

「架け橋プログラム」ってなんだろう

「架け橋プログラム」とは、子どもに関わる大人が連携して「架け橋期」にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、**一人ひとりの多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことをめざすもの**です。

箕面市では、令和4年度から令和6年度まで、文部科学省の「幼保小の架け橋プログラム事業に関する調査研究事業」を受託し、萱野小学校区をモデル地域として「架け橋プログラム事業」に取り組んできました。3年間の取り組みでの気づきを生かし、今後も全市域において幼児教育の学びの芽生えを小学校教育の学びへとつなぐことをめざし、この事業を進めています。

架け橋プログラムの取り組みを通した気づきについてご紹介します

キーワードは「安心」

幼児教育の場でも、小学校教育の場でも、子どもが**「安心」**できる環境のもとで、**学びに向かう力は発揮されます。**

幼児教育では

子どもは生活や遊びの中で、大人の温かいまなざしに見守られながら、安心感をもって自ら手を伸ばし、人やものに関わります。生活や遊びのなかで、幼児期にふさわしい様々な経験することは、生涯の学びへとつながっていきます。



小学校教育では

特に入学当初には、子どもたちが安心して自己発揮できるよう、学校内でのつながりをつくること、正解不正解に関わらず伝えようとしたことが認められることなどを大切にしています。安心して過ごせる環境づくりが「主体的な学び」の基盤となります。

例えば・・・

- 入学当初は45分の授業時間にとらわれず、柔軟に学習時間を設定
- 幼児期の遊びや活動を取り入れ、楽しみながら担任や友達と関わる活動を設定（じゃんけんれっしゃ、春みつけなど。）



進級や入園・入学など新しい環境の中では、子どもも大人も不安があるかもしれませんが、保護者のかたに安心して子どもたちを送り出していただくことも、子どもの安心感につながります。学校や就学前施設では、子どもたちが安心して過ごせるよう、丁寧な関わりや工夫をされています。不安や困りごとがある時には、学校や園が共に考え、支え合う場になることと思います。

箕面市架け橋期カリキュラムが完成しました！

架け橋プログラムの解説のほか、モデル地域で実践・検証を行った事例集などを掲載しています。幼児教育と小学校教育の接続で大事にしたいことが分かります。ぜひご覧ください。



箕面市架け橋期カリキュラムは、市ホームページからご覧いただけます。コチラ→

